

るそうですな。そりやけっこうな話だが、僕はそういうことやっとるひまがない。『自己とは何ぞや』ということがわからんのにね。同和が何か靖国がどうと、僕には言う資格がありませんよ。もつぱら『自己とは何ぞや。是れ人生の根本的問題である』—清沢先生の仰せを、どうせもう長く生きられませんから、今しばらくその道を歩きたい、こう思っているわけです」という部落差別問題への取り組みを否定したかのような発言。

いみじくも、この事件が露呈した問題は、参加した推進員や同席していた住職、寺族、宗務役員のだれ一人からも発言の問題が指摘されることがなく、また、集会後、この講述記録を、同年2月に大垣教務所で行われた学習会での講述記録と併せて同年11月に発刊(後に回収)したが、そのテープ起こしから出版に至るまでの作業過程において、ついに誰一人発言を問題視し得なかったというところがあり、それは、仏法によって言

御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」
 教区御遠忌テーマ「あなたは、与えられたいのちとどう向き合う？」

教化本部通信

【第62回】

真宗門徒の生活 朝夕におつとめをしましょう・声にだしてお念仏を申しましょう
 を回復しよう すずんでお寺の法座に身を運びましょう・報恩講を大切にお迎えしましょう

しんらんweb 検索

教化本部ホームページ「親鸞WEB」
リニューアル



親鸞 WEB

親鸞 教区御遠忌テーマ：あなたは与えられたいのちとどう向き合う？

・「何を、どう糾弾するか」参照

諸般の事情により運営が滞っていた教化本部のホームページを「親鸞WEB」としてリニューアルしました。

公開講座や各種研修会、教区御遠忌お待ち受け事業の情報を掲載しております。

最新の情報は「教区からのお知らせ」にて、随時発信していきますので、是非ともご覧ください。

当てられてくる、どこまでも自己を肯定していくという、人間の基を本来的な「根源的差別性」が「差別」を生み、同時に、差別を見失わせる「差別」となっているということであろう。

真宗同朋会運動における教学として、教化の指導的立場にあった師の差別事件は、難波別院輪番差別事件以来20年間の「同和」運動がかかえる課題の全てが顕になったといえる。それは、これまで受けてきた糾弾に対する回答が宗門人一人ひとりのうけとめにならな


いまま観念化していたことになったとしている。

「人間を差別する限りわたしは人間ではない」(同和問題にとりくむ宗教教団連帯会議) という、差別の現実のただ中で自己を問いつけることにおいてこそ宗祖親鸞聖人の「御同朋御同行」の精神を回復せんとする同朋会運動の実践の証となるのではないか。

・「部落問題学習資料集」参照
 ・「同朋社会の顕現のために」参照
 ・「何を、どう糾弾するか」参照

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌
お待ち受け総上山

▼奉仕団 10月▲
 10/23〜24
 第16組浄慶寺奉仕団 21名



田舎の学問より京の昼寝、50年ぶりに上山しました。歴史の重さ、漂う刻み、驚嘆歓喜で一同涙しました。

真宗同朋会運動50年に向けた運動の検証として、前号に引き続き、大谷派における差別事件・差別事象を取り上げる。今号は訓覇信雄元宗務総長の差別発言の概要と我々に突き付けられた課題について。

また「点描」は、1979(昭和54)年の「分裂報恩講」(中)。教区宗門非常事態收拾対策委員会の呼びかけに応じて自主上山し、警備に就いた僧侶や門徒は、分裂した報恩講を通して何を感じとっていったのか。

全推協叢書『同朋社会の顕現』差別事件。1987(昭和62)年7月4日から6日にかけて第15回真宗同朋の会推進全国集会在、訓覇信雄元宗務総長を講師として「同朋社会の顕現を目指して—私から始まる同朋会運動—」というテーマで、同朋会館を会場に209人の参加者を集めて開催された講演の中で、次の差別発言があった。

①職業差別—歎異の批判精神をもった教団のみが、教団の名に値するのであり、「いのちがけの批判精神がない」他の既成教団の事を「土建屋の組合と同じや」(他の人の言葉として引用)と、特定

の職業を名指した事は職業に対する社会意識としての上下意識がはたらいっている発言。

②女性差別—高山の女性参加者の「大谷派で、女性が住職に任命されないのは差別でないか」という発言に対し「ありや娑婆の話やないかね」と、実生活上の諸問題を信心と切り離し「あれはあれでいいやろが」と現状を肯定。さらに、性差別の問題に関わろうとする人々を貶しめ、どこまでも男性中心の社会を肯定している発言。

③「精神障害者」差別—(女性)が)シャシャリ出ていくのは、まあこれも少し精神病ですな」さらに「来たところ知らず、行く先知らず、まん中だけでいばつとる。それアホとちがうか。精神病院へちよつと行ってきた方がいいんじゃないかね」「これ気がいいというもんや」と精神障害者をも蔑む発言。

④部落解放運動に対し否定的な発言—「それから、この頃は同和とか靖国とか、よく問題になつと

真宗同朋会運動50年に向けて
 その検証 歩み(十二)
大谷派における差別事件 (6)
 教化本部 古卿 誠幸